

< 口腔の役割 >

うさぎの前歯

今年の干支は卯（う）、すなわちうさぎ年になります。ウサギの前歯は一見 2 本に見えますが、実はこの前歯の裏には一回り小さい歯が隠れ、2 枚重ねになっているので前後で 4 本あるのです。この 2 枚刃の歯を重歯（じゅうし）といい、その構造は大工職人が扱うまるで鉋（カンナ）のようです。

歯というのは、そもそも消耗品ですから摩擦ですり減ったり欠けたりは避けられません。サメやワニは生涯にわたって歯を交換し続けますが、哺乳類はなかなかそういうわけにはいきません。ヒトの場合は顎の成長に伴って乳歯と永久歯の総入れ替えと奥歯の追加が一度あるだけです。しかしウサギは常に歯を作り、伸び続ける常生歯（じょうせいし）のため歯を交換する必要なく、常に供給されるから実に合理的。歯が究極の進化を遂げたこととなります。この上の 2 枚刃、下の 1 枚刃で上手に草を挟み込んで効率よく切断する様子はまるで裁断機といえます。

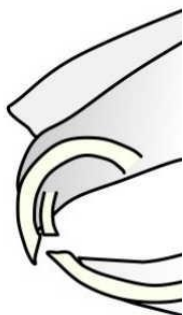
さてウサギの腸は繊維質の多い食べ物を消化するため、とても長いといわれています。繊維質は腸内をお掃除し、腸がスムーズに動くように手助けをしています。その繊維質をさらに細かくして消化・吸収しやすくしてくれるのが「盲腸」です。ウサギの盲腸は大きく発達し、盲腸内の微生物の力を借りて、たんぱく質やビタミン類を大量に含む盲腸便を作ります。よく知られるコロコロした便とは全く異なるこの盲腸便を食べることによって必要な栄養素を摂取しているのです。最近流行りの「腸活」はバランスの良い食生活や適度な運動などによって、腸内環境を整えることをいいますが、ウサギにとって重歯による食物の裁断とこの盲腸便のシステムが腸活なのかもしれません。

ではヒトの腸活はどうでしょう。ヒトの腸は全身の免疫の半分以上が集まります。食物を咀嚼（そしゃく）し、しっかり味わうことではじめて腸が活発に動くようになり、その結果、免疫力をあげることができます。ヒトにとっての腸活も、まずはしっかり食べられる歯と口の健康が大切といえそうです。

ウサギは古来より日本の各地で「山の神」とされ伝承されています。人間の暮らす里と神や動物のいる山とを身軽に行き来することからの境界を超えるものとしての崇拜、生活力があり多産で繁殖力が強いことから豊穰をつかさどる意味からのようです。

他にウサギにまつわるものに“雪うさぎ”がありますが、雪うさぎは雪を固めて作った半球状の胴体に南天や椿などの緑の葉を付けて耳として、そして南

天の赤い実を目としてウサギの形を作った雪像です。この時期、雪が積もった日、雪だるまは時々見かけますが、近年は庭木に南天がある家も少なくなったためでしょうか、雪うさぎをあまり見かけなくなりました。南天が冬でも枯れず「難を転じる」として正月の縁起物である植物であることも手伝って、愛らしい雪うさぎも日本の冬の風物詩としていつまでも伝承され続けて欲しいものです。



横から見たウサギの上下の前歯（上は重歯）

大工道具のカナナと裁断機を合わせたような仕組みです

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

